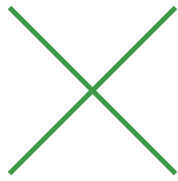


志賀
SHIGA KOGEN
高原

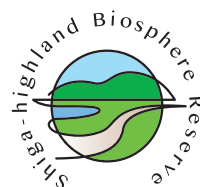


SDGs
STUDY
TOUR

志賀高原は 365日、SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

志賀高原はユネスコ認定の
自然と人間社会の共存を目指す
ユネスコエコパークです



志賀高原 × SDGs STUDY TOURのねらい

志賀高原では、生徒の皆様が STUDY TOUR で得た知識や経験を通して、将来、環境・経済・社会活動において、自分に何が出来るかを考え実行することができる「持続可能な社会づくりの担い手」の育成につながることを期待しています。

持続可能な社会づくりの担い手

ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。



ユネスコエコパーク = BR (Biosphere Reserves) とは

ユネスコエコパークをご存知ですか？

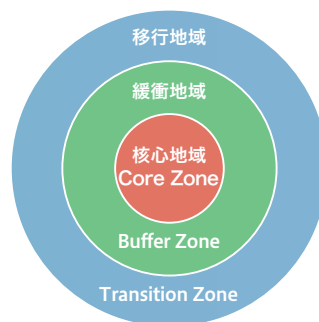
生物多様性の保全、持続可能な開発、学術研究支援を目的として、1976年にユネスコが開始。ユネスコの自然科学セクターで実施される MAB (Man and Biosphere) ユネスコ人間と生物圏計画における一事業として実施しています。

「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」に基づく世界遺産が、手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパーク (BR) は、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的としています。

「保全機能」、「経済と社会の発展」、「学術的研究支援」の3つの機能を持つ地域が登録されます。

志賀高原ユネスコエコパークは、年間約200万人を超える人々が訪れる、日本有数の観光レクリエーション地です。1960年代以降にスキー場を中心とした急速な開発が進められてきました。しかし核心地域はほとんど人為の影響が無く、原生的な森林が大面積で保全されており、緩衝地域にも、地域の人々の努力によって幽玄な亜高山性針葉樹林に美しい湖沼や高層湿原が保全されています。

ここ志賀高原ユネスコエコパークは、これら豊かな自然を活用したエコツーリズムと、環境学習を実施しています。



ユネスコエコパークは3つの地域から構成されています

■ 核心地域 (コアゾーン)

自然環境の世界全体の財産として厳格な保護を目的とした地域です。この地域では自然環境のモニタリングや、科学的なデータの収集などに利用されます。国内の法律により保護されます。(志賀高原ユネスコエコパークでは国立公園の特別保護地区と同一の範囲であり自然公園法などにより保護されています)

■ 緩衝地域 (バッファゾーン)

保護と活用の両立を目指す地域です。この地域では核心地域を保護する役割と、自然環境に負担がかからない範囲での活用ができます。生物多様性に配慮した森林経営や、教育・観光などに利用されます。(調査研究活動、森林復元、ESDなどの環境教育、エコツアーなどの観光・レジャーでの利用)

■ 移行地域 (トランジションゾーン)

地域住民の生活の場、地域発展のための様々な社会・経済活動の場です。自然と共存した経済活動を通じて、新たな環境対策、伝統文化の保護継承、コミュニティの振興などを行います。



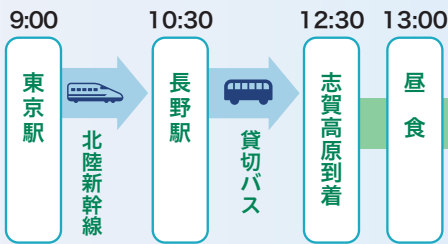
志賀高原SDGs STUDY TOURは、志賀高原の貴重な自然資源の中における体験を通じ、学校教育では補いきれない知識を身につけ、理解を深める学習の機会を提供しています。自然環境の保全・共生についての知識をはじめ、思考力、分析力などを高める質の高い学習（持続可能な開発のための教育＝ESD）を目指しています。

モデルプラン

この他にも様々なプランと組み合わせなど柔軟に対応できます。お気軽にご相談ください。

プログラムの
アレンジも可能です！

DAY1



プログラムスタート

2 天空のナイトゴンドラ&星空レクチャー

ナイトゴンドラで東館山山頂へ、満点の星空の下、星空を題材に志賀高原の自然環境を学びます。

3 国指定天然記念物石の湯ゲンジボタル

志賀高原に生息する珍しいゲンジボタルを学ぼう！



DAY2



1 ユネスコエコパーク SDGs環境学習プログラム

2日目は、ガイドの講義後に実際に緩衝地域や核心地域内のトレッキングコースを歩き学びます。



環境学習講義

45分

野外実習トレッキング

240分

自然の中で
お弁当



ディスカッション

60分

レポート・感想文



DAY3



16 2030SDGs ワークショップ

SDGsの意義そしてSDGsの存在理由についてゲーム感覚で学ぶ。



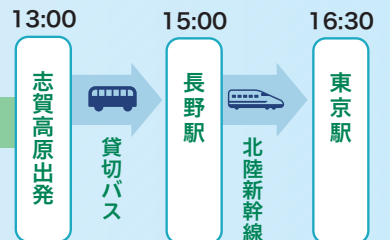
11 SUP体験 など

既存資源を活かしたアクティビティを体験。



10 ECO 飯盒炊爨

大切な資源をいかに少なく燃やし、美味しく炊けるか学びながら作る。



1 志賀高原ユネスコエコパーク 環境学習プログラム

人数 200名まで
 時間 約240分
 時期 5月上旬～11月上旬



環境学習講義

講師：志賀高原ガイド組合(公益社団法人日本山岳ガイド協会公認)ガイドによる講義

- 志賀高原ユネスコエコパーク・MABについて
- 地球環境から身近な環境までの問題を考える
- 野外実習の予習授業 等

宿泊施設で公益社団法人日本山岳ガイド協会公認の志賀高原ガイド組合ガイドによる約1時間の講義で、自然と人との共生についての関心と理解を深めます。



環境学習野外実習 トレッキング

講義終了後、志賀高原ガイド組合ガイドと共に、緩衝地域や核心地域内のトレッキングコースを歩きます。

時間やレベルに応じた様々なコースで自然体験が可能です。志賀高原ユネスコエコパークでは環境保全にどのような問題がありどの様に対処しているのかを、トレッキングをしながらガイドから学びます。



トレッキング約240分コース

緩衝地域(バッファゾーン)を、ガイドと共に歩きながら人間と自然の共生を学習。昼食・休憩を取りながらの約4時間のコースです。



ディスカッション・ワークショップの開催

環境学習講義・野外実習終了後、生徒の皆さんが自発的に発言をおこなえる環境を提供し、この学習で得た知識・感じたことなどをもとに話し合い、生徒のみなさんが感じたこと、他の友達を感じたことへの共感や新しい考え方の発見など、思考力を高めます。



レポート・感想文の作成

1日の環境学習を終え、自身のレポート・感想文を作成して、講義と野外での実習をまとめ理解を高めます。

- 志賀高原ユネスコエコパーク・MABについて理解し発見したこと
- 自然環境と自分の関係性
- 自分に何ができるかという具体的な行動
- 持続可能な開発に関する価値観 等

修了証・ピンバッジの授与

環境学習講座、野外学習、レポート感想文の提出の後、修了者に授与されます。



2 天空のナイトゴンドラ & 星空レクチャー

標高2000mの東館山山頂へ約7分のナイトゴンドラ乗車体験と、満点の星空の下、専門家による星空レクチャーがセットになったプログラムです。

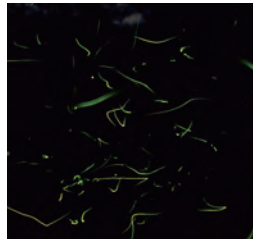


人数 50～280名
 時間 120～180分
 時期 天候によりゴンドラ運行不可の場合あり



3 国指定天然記念物 石の湯のゲンジボタル

全国的にも珍しい志賀高原のゲンジボタルについて学ぶことで、環境について考えるプログラムです。



人数 20名～
 時間 120分
 時期 7～8月



4 根曲がり竹 カンジキ作り

伐採した竹を廃棄するのではなく、自然資源の活用に着目し、志賀高原観光の重要な資源の一つである「雪」と自然の恵みである「ネマガリダケ」を利用し自然環境との調和を学びます。



人数 20名まで
 時間 120分
 時期 1～3月



5 外来駆除体験等 出た植物で染物体験

外来種駆除体験等が出た植物や志賀高原の食の恵み「根曲がり竹」の加工の際に捨ててしまう皮を染料として、手ぬぐいなどを染める染物体験。



人数 20～40名
 時間 120分
 時期 6～10月



6 遊歩道整備体験

ガイド組合にて日々行っている遊歩道の修繕や点検の取り組みを含めて、自然との共存について考えながらの作業となります。



人数 20～40名
 時間 90～220分
 時期 6～10月(7月中旬～8月上旬除く)



7 高山植物保護 外来植物駆除体験

次世代にも貴重な植物を残すために、高山植物の息を脅かす外来植物の駆除作業を行います。持続可能な自然環境の維持を行う為の体験となります。



人数 20～60名
 時間 90～220分
 時期 6～10月(7月中旬～8月上旬除く)



SDGsを学べる様々なプログラムをご用意いたしました！

8 学ぶ林業体験

山ノ内町内で間伐作業を実際に行います。講師が伐採の方法などを説明し、実際に樹の伐採をお見せします。生徒様にも一人1本、樹の伐採を体験して頂きます。間伐の意味などを学習します。



人数 4~20名

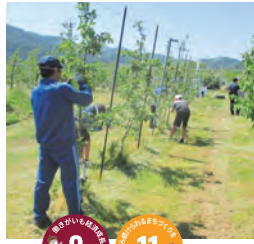
時間 約120分

時期 6~10月



9 信州の農業体験

観光農園ではなく本当の農業体験を実施したいというプログラムです。



人数 4~240名

時間 約120分

時期 5月・7月・9月



10 eco飯盒炊飯

世界の食料・水の偏り、廃棄物の処理の問題などを地球上で暮らしていく上で解決していかないことが山ほどあることがわかります。食べる大切さを探究し現地で体験します。



人数 20~200名

時間 約180分

時期 5月下旬~11月上旬



11 SUP (Stand Up Paddle) 体験

志賀高原で2番目に大きい琵琶池で行い、有資格インストラクターの指導や管理のもと、楽しく安全にウォーターアクティビティをお楽しみいただけます。



人数 40~50名

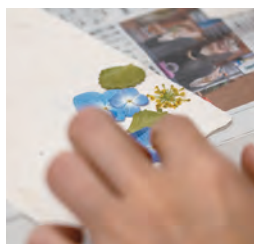
時間 約150分

時期 6~10月



12 和紙でしおりカード封筒作り体験

トレッキング時の外来種駆除活動で駆除した草葉を使用し、押し葉のしおり・カード・封筒を作成。紙に使われる植物や日本の和紙の伝統について理解を深めます。



人数 20~200名

時間 120分

時期 7~8月



13 エコ発電システムを学ぼう

クリーンエネルギーの良い部分だけでなく、水利権やメンテナンスといった裏の面を見つ、今後のエネルギーを考えていきます。



人数 10~40名程度

時間 120分

時期 5月上旬~12月上旬



14 山岳救助隊体験

日常生活ではほぼ接することのない救助隊の体験を通して、自然の厳しさや人命の尊さ、救助活動の大切さを学びます。



人数 20名~

時間 120分

時期 7~8月



15 毛バリ作りと原種のイワナ釣り体験

自分で作った毛バリを使用して天然のイワナ釣りの体験を通して自然の豊かさ水の大切さを学びます。(釣った魚はリリースします)



人数 10~15名

時間 240分

時期 4月中旬~9月下旬



16 2030 SDGs カードゲーム体験

SDGsの意義そして存在理由についてゲーム感覚で学びます。2030年までの現実の世界を模して、ゲームの中で活動し様々なプロジェクトを実行して、世界にどのような影響を与えるか体感します。



人数 1カードキッドにつき60名まで(同時に5クラスまで可能)

時間 約150分

時期 通年



17 大切な水について考える

17A 水道水の始まり(丸池水道)

人数 20~40名 時間 約60分 時期 通年



17B 水を大事に使おう

人数 20名程度まで 時間 120分 時期 通年



17C 上下水道って何?

人数 10~20名

時間 約120~240分

時期 5月下旬~10月下旬



18 お風呂のエネルギーについて考える

18A お風呂から学ぶエネルギー

人数 20~40名 時間 約60分 時期 通年



18B 温泉を学ぶ

人数 10~20名 時間 約120分 時期 5月下旬~11月上旬



18C 温泉熱を活用しよう

人数 10~20名

時間 約120分

時期 通年



19 命を守るロープワークとウォーターレスキュー体験

普段の生活でも、また万一の時にも役立つロープワークを楽しみながら学びます。また、それを応用して水を使ったセルフレスキュー体験をします。



人数 10~20名

時間 120分

時期 6~10月



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な開発目標(SDGs)とは、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。SDGsの目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。

(引用元：国際連合広報センター)



志賀高原×SDGs STUDY TOURでは、以下の項目を学習できます



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

1 11 19



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

1 4 5 12 14 19



すべての人々に水と衛生へのアクセスを確保する

8 15 17



手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

8 13 17C 18



すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、雇用およびディーセント・ワークを推進する

9



都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

6 7 9 13 14 18C



持続可能な消費と生産のパターンを確保する

4 5 9 10 12 13 17C 19



気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

2 3



海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

8



森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

1 2 3 4 5 6 7 8 9 11 12 15



持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化

16

